

教育相談課だより No. 9

目は口ほどに物を言う

犬や猫だけでなく、ライオンやキリンや象、人間に近い猿にしても、動物の目をよく見てみるとほとんどが黒目です。これは、野生の動物は視線がどこを向いているかが他の動物にわかってしまうと身を守るのにも、狩りをするにも不都合があるからと言われています。しかし、人間は白目の中に黒目がくっきりと見えます。

人間のように白目と黒目がはっきりしていると、その視線で何かを感じるようになるのです。その証拠に、紛争地域の国境付近の兵士は、サングラスをしていました。これは極限の緊張感の中で視線が合ってしまうと、相手がこちらを見ているという意識が働き、命の危険を感じることで発砲してしまうことを避けるためとのことでした。

人間は進化の過程で頭脳が発達し、コミュニケーションツールとして、目が発達してきました。すなわち、言葉に出さなくても、視線を向けることや逆に視線をはずすこと、また目の表情などで、自分の気持ちを相手に伝えることができるようになったのです。まさに、“目は口ほどに物を言う”ということでしょう。



今、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、社会が混乱しています。マスクが不足し、買い求める人の間でトラブルがあるとの報道もあります。相手の感情を推し量り、自分の感情をコントロールし表現すること（教育相談課だよりNo. 8参照）の必要性が高まっているように感じます。

学校においては、今後、教育活動が徐々に再開されると思いますが、教職員はもとより、児童生徒も含め、誰もがマスクをした生活になることでしょう。マスクをするということは、表情を読み取ることが大変難しく、相手の感情を推し量ることに困難な状況が生まれます。限られた情報（例えば、視線や身振り、手振り）をもとに人間関係を円滑に進めることは、難しいと想像できます。そんな中でも、児童生徒が楽しく学校生活を送るために、教職員としてできることのひとつとして、限られた情報からの確に児童生徒の感情を推し量ることがあるのではないのでしょうか。

本来であれば、各種講座を通して、こうした知識やちょっとしたコツをしっかりと研修し、児童生徒との対応に生かしてもらうことが茨城県教育研修センターの役割ですが、新型コロナウイルス蔓延のため、本センターでの講座の開始を遅らせている状況です。また、3密を避けて講座を実施することを念頭に、全講座を再構築したところ、実施できない講座が複数あります。特に、教育相談課が担当する講座では、ロールプレイを実施しながら、受講者の皆さんに体験的に学んでいただくことが多いこともあり、実施できない講座が多くなっています。受講者のみなさんには、大変ご迷惑をおかけし申し訳ありません。本センターでは、代替措置として、講座資料等をWebページに順次公開して行きますので、ぜひご活用ください。